

## 福島県水田農業産地づくり対策等推進会議懇談会 議事録

場 所：ふくしま中町会館 6階「特別会議室」

日 時：平成29年9月5日 10時50分～

遠藤康浩 事務局長（JA福島中央会 農業対策部長）の司会により以下のとおり進行された。

### 1. あいさつ

川上雅則会長（JA福島中央会 常務理事）

### 2. 座長選出

事務局長から、川上会長が座長を務める事を提案し、議場の承認を得て会長を座長として意見交換会に入った。

### 3. 意見交換

座長より、第2回総会で決定された議案をふまえて、29年産米における経過と30年産米の取り組みについて、構成機関・団体より順に発言を求めた。

#### JA全農福島米穀部 渡部部長

30年産米の取り組みを考える場合、米の需給調整ばかりで無く、福島県全体の農業のあり方を考える必要がある。畜産や園芸作物を含めて、地域別、エリア別に経営モデルを示すなど、福島県農業の復興・再構築を考えるべきではないか。

#### 福島県米肥組合 穴戸参事

業務用向けの米が不足している。このため多収品種の生産を推進している。今週JAの概算金が決まる。生産者の買取価格が高くなれば30年産の生産調整に影響する。関東は概算金が相当高くなっている。品質・収量が不確定ななかで価格だけが先行するのは困る、適切な価格形成を望む。

#### 第一食糧卸組合 山崎専務

8月25日傘下の業者を集め会議を行い、8月9・10日意見交換会の内容を説明した。30年産以降の国の助成額等が明らかにならないと、生産者の具体的対応が見えない。「生産数量（面積）の目安」ガイドラインが検討のスタート。如何に生産者に理解してもらうかが課題で、30年産から飼料用米の取り組みを拡大する業者も

いる。飼料メーカーに直接販売する意向。米価の安定が一番大切。

市長会 小松事務局長

市長会として、国に対する要望事項を来月東北市長会で取りまとめ、今後要請を実施する。内容は 産地交付金の確保、食料自給率の向上、飼料用米支援策の充実・恒久化、環境保全型農業の推進、風評対策、担い手への農地集積（予算確保）の6点。

町村会 安田事務局長

国への要望は市長会と同様の内容。米の直接支払交付金に代わる仕組みづくり、県全体の農業をどうするのか、担い手、農地集積等にかかるビジョンづくりが必要。

農業会議 菊地事務局次長

昨日、30年以降の米政策の見直しで、国と法人協会とで意見交換を行った。国は米価が上昇する事に対して心配しているようだ。生産現場においては、高齢化が問題となっているが具体的な対策については、十分な話はされていない。営農の継続は、法人化しても難しい現状。大手の米卸が農家の囲い込みをやっている、31年以降、担い手が減少し、生産が継続されるのかどうかを懸念。今後は農業経営者を育てる視点で、行政も取り組んでほしい。

農業振興公社 久保木事務局長

中間管理機構として、28年度は1,428haの集積実績、目標対比で27%の状況。何故か、農業経営としてやっていけるビジョンがないから、ビジョンを示し、生産者に周知していくことが必要ではないか。

福島県農林水産部 佐藤技監

「30年以降の福島県水田農業の推進方針」の具体化に取り組む。米の需給調整については、今後5年程度試行錯誤しながら取り組み、将来は一定の方向に収斂していくものと考えている。農業にとどまらず、地方創生の視点が必要。法人化だけでなく、地域別・営農類型別・規模別経営モデルの提示が必要ではないか、昭和村のグリーンファームのような定住化や地域づくりなどを組み合わせた、過疎対策などの地域創生の取り組みが必要だ。

東北農政局福島県拠点 石橋参事官

30年予算概算要求では、担い手への農地集積や農の雇用事業な

どが入っている。米以外の作物への転換することが必要である。

J A 全農福島米穀部 渡部部長

米の輸出について、輸送コストを考えると買い入れ価格は7,000円程度でなければ難しい。未だに福島の米については禁輸国もあることから、輸入解禁に向けた国として強力な取り組みが必要。

東北農政局福島県拠点 石橋参事官

米の輸出については、国としても力をいれていく。

福島中央会 遠藤部長

米だけではなく秋田県の園芸メガ団地構想のようなものが必要ではないか、園芸の場合は担い手が課題となるが。復興も地方での雇用の受け皿ということで位置付けても良いのではないか。他県からの転入者ということでは南郷トマトのような事例もある。

福島県水田畑作課 大波課長

喜多方市三ノ倉高原のヒマワリや下郷町猿楽台地の蕎麦畑の景勝地、西郷村由井ヶ原の酪農メガファームでの若者受入など、特色ある取り組みは多くある。ただし、県としても発信力が不足している。

川上会長

懇談会は今回はじめての取り組み。本日出されたご意見については、今後に活用していきたい。

以上